理学部は今

題字 增田芳男理学部長

理学部のホームページ http://www.sc.niigata-u.ac.jp



平成15年10月、大学院自然科学研究科生命環境棟が完成

目	次
国立大学の法人化について 2	転出教員の紹介
理学部後援会事業報告、事業計画 3	自然環境科学科 川口正代司6
SSH理学部体験実習・実験の実施 3	大学院・数学科系 鈴木 智成 6
学科ニュース	新任教員の紹介
数 学 科4	物理学科 大野 義章 6
物 理 学 科4	大学院・化学科系 田山 英治6
化 学 科	生物学科 内海 利男 6
生物学科4	入学者都道府県別分布表 7
地 質 科 学 科 5	卒業生進路状況・平成15年度入学者数 7
自然環境科学科5	校舎新築・改修工事8
附属臨海実験所ニュース 5	これからの行事予定 8
	編集後記

国立大学の法人化について

理学部長 増田 芳男

7月9日、「大学の教育研究に対する国民の要請に応えるとともに、我が国の高等教育及び学術の水準の向上と均衡ある発展を図るために」、国立大学法人法が成立し、来年4月から国立大学の設置形態が大きく変わることになりました。ここでは、国立大学法人法とそれに対する私たちの取り組み状況をご紹介し、後援会の皆様方のご理解を得たいと思います。

国立大学法人法の中には、これまでの国立大学にはなかった、多くの新しい考え方が導入されています。学長のリーダーシップが強化されること、役員会と経営協議会を設けて学外有識者が大学の経営主体に参加すること、自主・自律的運営と競走原理を導入すること、非公務員型の雇用形態を導入すること、中期目標・中期計画というスキームを導入し、その達成度を評価して、結果を国からの運営費交付金の配分に反映すること等があげられます。

今後、大学を取り巻く状況は益々激しく変化することが 予想されます。このような変化に迅速かつ柔軟に対応する ためには、学長のリーダーシップは必要であると思われま す。トップダウンかボトムアップかという議論もあります が、柔軟性のある教育研究体制を構築するためには、学長 のリーダーシップをうまく活用する仕組みを整えることが 課題であると思われます。

また、経営協議会の半数以上のメンバーに学外の有識者を加えることに対する不安が、新聞等で取り上げられています。しかし、このメンバーには誰を選び、自分たちの大学を発展させるためにどのように活躍していただくかは、それぞれの大学に委ねられる事項であり、大学の工夫が問われることになると思われます。

中期目標は文部科学大臣が定める事項であることから、

文部科学省の大学に対する統制が今よりも強まることを懸念する意見もあります。一方、国立大学法人の運営が税金に依存する以上、国が中期目標をチェックするのは当然であるという意見もあります。しかし、中期目標の実際上の作成主体は国立大学であり、各大学が作成した中期目標が最終的どのような姿になるのか、その過程の透明性を確保することで大学の主体性は保たれると思われます。

また、六年間の目標・計画の達成度の評価が国の予算配分に反映される仕組みについては、評価基準を明確にする必要があります。特に教育研究の成果は短期間には評価できない面が多くあり、評価の在り方の検討が緊急の課題です。基礎科学である理学は、自然の真理を追究する文化的活動であり、未来の科学技術の源泉となる新しい発見を通して明日の社会に貢献する学問であって、短期的な効率の視点では評価できない学問です。新聞紙上には、「国立大学評価委員」の人選が終わり、評価委員会が動き出したことが報道されています。評価は日本の高等教育研究の将来を左右する重要な事項です。多元的で透明性の高い評価が行われるよう、今後の動向を注意深く見守りたいと思います。

大学の使命は教育・研究であり、それらを通じて社会に 貢献することであるという認識のもと、新潟大学でも新し い法人制度のメリットを最大限に生かし、長期的展望に立 って自主・自律の体制を整え、教育研究及び社会貢献に実 をあげるための制度の設計に、学長を初め全学一丸となっ て取り組んでいるところです。

後援会員の皆様におかれましては、私たちのこのような取り組みをご理解下さり、旧に倍するご支援を賜りたく、御願いする次第です。



正 門



理学部表札

後 援 会 報 告

平成14年度理学部後接会事業報告

1. 定期総会の開催(理学部合同講義室)

平成14年4月5日(金)午前11時から

2. 理事会の開催 (理学部大会議室)

平成15年3月27日(木)午後6時から

- 3.各種事業
 - (1)学生の課外活動及び福利厚生関係
 - ① 新聞の購読(新潟日報、朝日新聞、日刊スポーツの3紙)
 - ② 賠償責任保険の加入
 - ③ 大学祭援助
 - ④ 校舎改築に伴う学生用設備充実の援助

(2)学部教育事業関係

- ① 特別講演会の援助 数学科1回、化学科3回
- ② 新入生合宿研修経費の補助 数学科
- ③ 野外実習経費の補助 地質科学科
- ④ 学生実習経費の補助 自然環境科学科
- ⑤ 臨海実習経費補助 臨海実験所
- ⑥ 学生インターンシップ協力事業所との懇談会補助
- ⑦ 国際交流事業関係の援助 中国地質武漢校使節来学事業
- ⑧ 教材購入補助(ビデオ教材、プリンター等)

(3)卒業祝賀会関係

平成15年3月24日(月)東映ホテルで、卒業祝賀会 (卒業式終了後)を開催(卒業式終了後15時から祝賀 会を開催し、卒業生、教職員、保護者、後援会役員の 方々から多数参加いただき盛大に行われました。)

平成15年度理学部後援会事業計画

1. 定期総会の開催 (理学部合同講義室)

平成15年4月8日(火)午前11時から

2. 理事会の開催(理学部小会議室)

平成16年3月26日(金)(予定)午後6時から 理学部 小会議室

- 3.各種事業
 - (1)学生の課外活動及び福利厚生関係
 - ① 新聞の購読(新潟日報、朝日新聞、日刊スポーツ、 日本経済新聞)
 - ② 賠償責任保険の加入
 - ③ 大学祭援助
 - ④ 校舎改築に伴う学生用設備充実の援助

(2)学部教育事業関係

- ① 特別講演会の開催
- ② 学生研修・実験・実習の補助
- ③ 就職・進学の資料収集の援助
- ④ インターンシップ等の実施援助
- ⑤ 国際交流事業関係への援助

(3)卒業祝賀会関係

卒業式当日、卒業祝賀会を開催する。(卒業生の保護 者の参加も歓迎いたします。)

SSH 理学部体験実習・実験の実施

SSHWG 主查 徳江 郁雄

近年、理数離れが深刻な社会問題になっているなか、高校生を対象に自然に対する興味を引き起こすため、また充実した理科、数学および科学技術教育を実施するために将来有為な人材を育成する事業を理学部は支援しています。

この活動の一環として、昨年度スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 実施校に指定された新潟県立長岡高等学

校の理数科および普通科の2年生を対象にして、理学部での体験実習・ 実験が7月12日(土)と13日(日)に行われました。

理学部ならびに関連する自然研の 教員が協力し、実施場所は理学部棟 と大学院自然研の物質生産棟、情報 棟他で、各テーマの所要時間は討論 を含め4時間半を予定し、両日とも それぞれ1テーマを受講してもらい



合同講義室でのオリエンテーション風景

ました。実施したテーマ数(参加生徒数)は、12日が13テーマ(43名)、13日が7テーマ(23名)でした。高校生は、オリエンテーションのあと10時から15時30分の間、教員あるいは TA (院生、学生) の指導のもとに、各テーマに熱心に取組んでいました。

この後、長岡高校の理数科2年生は約1年間にわたり課題研究を実施していますが、理学部で行われた実習を基に設定されたテーマもいくつかあるとのことです。また、実習の後で、高校生は体験実習の実施についてのアンケートおよび実施テーマについてのレポートを作成しました。高校

側でまとめられたこれらの資料は、 今後このような事業を支援していく 上で、非常に参考となっています。

理学部は、大学院を含めた研究施設の見学や授業・実習実験によって最先端の研究開発成果を体験させたり、課題研究の助言指導等を通して、科学技術について有為な人材を育成する事業にこれからも協力していきます。

学科ニュース

■数学科

現在の高度情報化社会においては数理情報系分野の教育 研究の発展が強く期待され、高度情報教育に根ざした教育 が求められています。当数学科では、平成14年度に文部科 学省から高等学校教諭一種免許状(情報)の取得ができる 課程が認可され、現在学年進行中であります。今後、情報 専修免許課程を視野に入れ、より充実した教育をめざして 教員一同努力していくつもりです。本年も理学部後援会か ら補助を頂き、学生を支援する計画を立てました。 4月12 日、13日には巻町の県青少年研修センターにおいて新入生 合宿研修を行いました。学生にとって相互の親睦が深まっ たものと考えています。また、学生の就職支援の一環とし て、講演会を計画しました。5月14日には平成15年度に当 数学科を卒業生されました中学校と高等学校の2人の先生 から「新潟県教員になって」と題する講演を行っていただ きました。11月20日には民間企業の就職担当者を講師にお 招きして講演会を開催する予定です。

■物理学科

今春、宮野和政先生が退官されました。一方、物性分野 の実験と理論の分野でそれぞれ山田裕先生、大野義章先生 が着任されています。物理学科も様変わりしつつあります。 学生と教員との交流のため、6月27日に「ケルビン祭」を 開催しました。院生が中心となった企画には200名をこえる 学生が参加しました。研究面でも活発な交流がおこなわれ ています。11月19日-22日に、黒川村において鈴木宣之先 生等が中心となって国際シンポジウム「新時代の原子核構 造物理学」が開催されました。100名の研究者が世界中から 新潟に集まって不安定核等の研究について報告がなされま した。12月1日-6日には西亮一先生が中心になって日本 ーイタリアセミナーが新潟大学において開催されました。 宇宙最初期天体である第一世代銀河形成についての研究者 が一同に会しました。10月29日には、大原謙一先生が企画 者となって「林忠四郎記念講演会」が開催されました。佐 藤文隆先生の「ビッグバン宇宙論のはじまり」の講演には 多くの学生、教員が参加しました。 3月には、ニュートリ ノの国際ワークショップも新潟大学で予定されています。 物理学科は、いま教育研究に旬を迎え発展しつつあります。

■化 学 科

10月に、田山英治氏が化学科系の大学院自然科学研究科助手として着任した。田山先生は中井研究室で有機化学の教育・研究を担当します。直接指導を受ける4年生以外の

学生も、2年次の実験データ処理法等で指導を受けます。 橋本哲夫教授が、本年3月27日に佐世保市にて開催の原子 力学会にて平成14年度日本原子力学会賞・学術業績賞を「鉱 物を用いた放射線誘起ルミネッセンス現象の新研究法開発 と考古遺物研究への応用」のテーマで受賞しました。放射 線誘起ルミネッセンスの二次元カラー画像化、天然石英粒 子の赤色熱ルミネッセンス(RTL)特性の発見とともに、 環境放射線測定や年代測定への利用等が評価されました。 全学共通教育用の校舎のC,A,D棟が昨年度改修され、すば らしい環境になって学生が利用している。化学科の専門教育 では、1年次の基礎化学実験 I と2年次のコンピューター教 育で活用している。最新の環境で実験に取り組んでいます。



■生物学科

生物学科では4月に24名の新入生と2名の3年編入生を迎え入れました。8月の上旬に行われたオープンキャンパスと学部説明会は多数の高校生で賑わいました。2学期が始まった10月1日には、信州大学繊維学部から内海利男先生が着任されました。

理学部校舎は大学院自然科学研究科の院生と一緒で狭く、自然科学研究科棟の新築が待たれていましたが、理学部 C 棟と自然科学研究科の物質生産棟のほぼ中間の位置に7階建ての生命環境棟が9月に完成しました。新しい建物の3階と7階に自然科学研究科の生物系と生物学科の教員合わせて11名が10月中に移動しました。3階は5名の教員の研究室と実験室で、7階は古くなった理学部校舎 C 棟の改修が済むまでの一時の引越し先として6名の教員が移ります。理学部の改修が済めば7階の6名と理学部C1棟の2名の教員がC棟2階に引越します。理学部校舎 C 棟2階は、8名の教員の研究室と実験室の他に生物学科の学生実習室や事務室などに改修されることになっています。

4年生の内1名は9月に卒業しました。残りの4年生で 就職を希望する人は3名です。まだ全員の就職は決定して はいませんが、就職活動も追い込みに入っています。大学 院進学希望者17名は、9月中に試験も終わって全員の進学先 が決定しました。4年生にとって課題研究に集中する大切な 時期ですが、研究室の引越しが重なり、大忙しの状況です。

■地質科学科

2003年度は、地質科学科にとっては、新たなスタートで した。春には改修工事が完成して、新たな部屋が揃いまし た。教室の半分だけですが、一新した部分は、昔の教室の イメージからは考えられないほど廊下がすっきりしていま す。春には3年生の大巡検が中部地方で行なわれ(写真)、 春から夏には、進論、卒論の諸君もフィールドへと散って いきました。8月には地学団体研究会の総会の開催。田澤 先生はオランダ、新川先生がオーストリア・チェコ、松岡 先生がスイスへと出張。夏から秋となり、今年の進論発表 会では、3年生が頑張った成果を発表しました。10月中旬 に、5人の先生(加々美、豊島、小林、松岡、栗田の各先 生)が生命環境棟に移って、ここに地質科学教室の一角が 形成されます。さて、来年4月からは国立大学が法人化さ れます。問題点もかかえながらのスタートです。先行きは 厳しいものがあり、教室予算も現時点で昨年度比63%程度 と、困難をかかえております。が、私達一丸となって、学



■自然環境科学科

自然環境科学科は平成6年に創立され、今年で10年目を迎えました。それを記念して、去る10月11日(土)の午後3時から、当学科創立10周年の記念事業として、ウェルシティ新潟(旧厚生年金会館)にて、記念式典・講演会・懇親会を当学科の同窓会「創環会」と共催でおこないました。

来賓あいさつとして、学長代理特別補佐(財務担当)伊藤忠雄先生、理学部長増田芳男先生をはじめ、新潟県保健環境科学研究所長漆山佳雄氏などからお祝いの言葉をいただきました。そのほかに、来賓として、1)インターンシップでお世話になっている応用地質(株)技術長針生真也氏など、2)実習先として、東北電力東新潟火力発電所の皆川邦博氏、信濃川大河津資料館館長五百川清氏などの紹介がありました。また、当学部の他学科からも各学科長の紹介がありました。その後、10年間の学科の歩みを、当学科の濱口哲先生から紹介されました。

記念講演会では、新潟県保健環境科学研究所情報調査科 長福崎紀夫氏により、「自然環境科学科と酸性雨研究センタ ーとの共同研究」と題して、当学科がお世話になっている 学生の研究を交えて報告いただきました。また、(財)環境 地質科学研究所理事長中山輝也氏には、「未来創造に向けての技術者と経営者」と題して、持続可能な社会をめざして技術者はどう生きるか、技術者倫理などについてお話しいただきました。その後盛大に懇親会が開かれ、卒業生3人から近況報告、在校生による自主ゼミ(現場ゼミ、お天気ゼミ)の報告などがありました。現役教官13名、退官教官4名、来賓18名、卒業生54名、在校生34名の計123名の参加で、なごやかに10周年を祝いました。



「附属臨海実験所ニュース

臨海実験所では、今年も夏休み期間中に合計 4 つの臨海 実習を開講しました。それらは、県内の高校生と理科教育 関係者を対象とした公開臨海実習、全国の大学生を対象と した公開臨海実習、生物学科と自然環境科学科の臨海実習 です。今年は、これまで実習の主戦力として活躍していた 東藤助手が北大助教授に栄転したこと、長年事務・雑務を 担当していた中川技官が定年退職したことなどから、実習 を世話する所員が、教員 1 名、技官 1 名、パート 1 名とな り、誰が欠けても実習の遂行が困難になるきわめて厳しい 状況でしたが、どの実習も事故もなく無事終えることがで きました。

生物の実習に協力教官として参加してくれた東藤先生、他大学向け公開臨海実習の協力教官の西川輝昭先生(名大)、自然環境科学科の実習を分担してくれた山平・酒泉両先生など、関係者のご協力に深謝します。



他大学向け公開臨海実習でのプランクトン採集風景

転出教員の紹介



川口正代司(自然環境科学科)

自然環境科学科環境生物学大講座に 在職ししていた川口正代司助教授は、 2003年8月1日をもって以下に転出さ れました。

東京都文京区本網7-3-1 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 植物生理学研究室 助教授



鈴木 智成 (大学院・数学科系)

新潟大学には平成10年の2月から今年の8月まで、5年と7ヶ月お世話になりました。

私自身には任期は付いていないもの

の、5年以内に異動しなければならない所を7ヶ月もオーバーしてしまい、誠に申し訳なく思っております。特に、研究科と私の間で板挟みになった先生方には大変不愉快な思いをさせてしまい、重ねてお詫び申し上げます。また、このような厳しい状況であるにも関わらず、暖かく励まして下さった先生方には、今でも大変感謝しております。 助手の公募を含む多くの大学の教員公募に応募しましたが、なかなか採用されず、非常に困っていた所、九州工業大学に採用されました。今後は、新潟大学で得た経験を生かして、教育・研究活動に全力で取り組んでいきたいと思っております。また、自由に研究できる立場になったということは、研究成果に対する責任がある訳で、非常に身の引き締まる思いをしながら研究しております。

最後になりましたが、新潟大学のますますの発展を祈っ ております。ありがとうございました。

新任教員の紹介



大野 義章 (物理学科)

9月に物理学科に着任いたしました。名古屋大学で学位を取得後、同大学に11年あまり在職していました。学部と修士課程の6年間は金沢大学にい

ましたので、北陸の生活にはなれているつもりです。専門は物性理論で、とくに金属中の電子がクーロン相互作用によってひきおこす異常な振舞い(強相関電子状態)について研究しています。具体的には、電子の有効質量が1000倍にもなる重い電子系や、現在最高の転移温度(−123℃)を示

す銅酸化物の高温超伝導などです。理論の話よりも実験の話を聞くことが好きで、着任以来、毎日のように物性実験の先生方から面白いお話を伺っています。もしお時間があればぜひ皆様のお話も聞かせて下さい。どうぞよろしくお願いします。



田山 英治 (大学院・化学科系)

大学院博士課程終了後、カナダ・トロントでの約1年半のポスドクを経験し、平成15年10月1日に自然科学研究科の助手として赴任しました。これま

で日本国内の都市を引越や旅行などで数多く訪れた経験はありますが新潟の地は初めてであり、日本海側の都市に住むのは約15年ぶりです。専門は有機合成化学であり、ここ数年は高い立体化学の制御を行いつつ、自然環境になるべく負荷を与えない新規な反応や経路の開発をおこなっておりました。これから学生を指導していく立場となるわけですが、学生には新しい現象を発見するためにはどのような研究へのアプローチをしていくか、またどのようにその内容をまとめていくかという経験を是非していただきたく、私もその経験を共有したいと思っています。今回の着任は私にとっては長い学生(ポスドク含む)生活が終わり、新たなキャリアの始まりです。社会人の一員としては未熟なところ多々あると思いますが、新潟大学の教員、職員、学生、後援会の皆様、よろしくお願いいたします。



内海 利男 (生物学科)

10月1日に、生物学科に赴任致しました内海(うちうみ)と申します。専門は分子生物学で、特にリボソームという細胞内タンパク質合成装置を中心

に、タンパク質がどのように合成されるのか、という問題に取り組んでいます。趣味は囲碁ですが、最近は研究・教育のほうに没頭し、棋力向上心は無くなってしまいました。私は、7年前まで新潟大学(医学部生化学講座)の助手として15年間在籍しており、その間本学の多くの方々にお世話になっております。その後信州大学の繊維学部で、蚕タンパク質合成系の研究に取り組み、新潟に戻りました。7年前と比べますと新潟には大きな建物が増えたり、サッカースタジアムが出来たりと様変わりをしていました。しかし、海の幸や日本酒の変わらぬ美味には古巣に戻った喜びを感じています。大学の最も大きな変化と言えば、来年度からの独立法人化への移行でありましょう。この大学の転換期に理学部の向かうべき道を皆様と一緒に考えて行きたいと思っております。よろしくお願い致します。

新潟大学理学部入学者都道府県別分布表

	平成15年度 平成14年度					平成13年度				平成12年度			平成11年度			平成10年度								
出身高校	入当		合計	比率		产者	合計	比率	入与		合計	比率		产者	合計	比率	入当		合計	比率	入当		合計	比率
所在地	男	女			男	女	1111		男	女	ппп		男	女	ппп		男	女	ппп		男	女	ппп	
新潟県	56	23	79	36%	61	19	80	38%	63	25	88	42%	57	9	66	32%	53	27	80	40%	57	31	88	42%
北海道	4	1	5	2%	3	1	4	2%	8	1	9	4%	6	3	9	4%	7	0	7	4%	10	2	12	6%
青森県	1	1	2	1%	5	0	5	2%	2	2	4	2%	2	0	2	1%	2	1	3	2%	0	0	0	0%
岩手県	2	0	2	1%	3	0	3	1%	2	0	2	1%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
宮城県	2	1	3	1%	0	1	1	1%	1	1	2	1%	2	0	2	1%	4	0	4	2%	3	1	4	2%
秋田県	9	2	11	5%	5	2	7	3%	11	4	15	7%	17	3	20	10%	7	6	13	7%	9	2	11	5%
山形県	10	4	14	6%	11	5	16	8%	6	0	6	3%	8	3	11	5%	13	1	14	7%	11	1	12	6%
福島県	9	5	14	6%	7	6	13	6%	9	4	13	6%	7	4	11	5%	10	1	11	6%	7	3	10	5%
茨城県	4	1	5	2%	0	0	0	0%	1	0	1	0%	1	0	1	0%	1	1	2	1%	1	1	2	1%
栃木県群馬県	12	2	14	6% 5%	11	2	13 10	6% 5%	7	2	8 13	4% 6%	6 13	2	8 15	4% 7%	6	5	8 16	4%	3 10	1	12	2% 6%
					9	1												0		8%		2		
埼玉県	3	1	4	2%	1	1	2	1%	4	2	6	3%	6	2	8	4%	1		1	1%	6	3	9	4%
千葉県東京都	2	0	3	1% 1%	4	0	3	1% 2%	2	1	3	1% 1%	6	0	7	0% 3%	3	0	4	2% 1%	1 5	1	6	1% 3%
東 京 部 神奈川県	1	0	1	1%	1	1	2	1%	3	1	4	2%	2	1	3	1%	1	0	1	1%	1	0	1	0%
富山県	6	1	7	3%	4	2	6	3%	2	1	3	1%	6	2	8	4%	5	2	7	4%	2	2	4	2%
石川県	5	0	5	2%	2	1	3	1%	3	0	3	1%	0	0	0	0%	1	0	1	1%	0	0	0	0%
福井県	2	1	3	1%	0	1	1	1%	0	1	1	0%	0	0	0	0%	3	1	4	2%	2	0	2	1%
山梨県	6	1	7	3%	2	1	3	1%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	0%
長野県	6	2	8	4%	7	2	9	4%	10	2	12	6%	9	1	10	5%	5	1	6	3%	5	1	6	3%
岐阜県	3	0	3	1%	2	0	2	1%	1	0	1	0%	2	1	3	1%	1	1	2	1%	2	0	2	1%
静岡県	3	1	4	2%	4	2	6	3%	4	0	4	2%	2	2	4	2%	7	0	7	4%	3	0	3	1%
愛知県	0	0	0	0%	1	0	1	1%	1	0	1	0%	2	1	3	1%	1	0	1	1%	5	0	5	2%
三重県	1	0	1	1%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	2	0	2	1%
滋賀県	2	0	2	1%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
京都府	0	0	0	0%	1	0	1	1%	2	0	2	1%	1	1	2	1%	0	0	0	0%	2	0	2	1%
大阪府	3	0	3	1%	4	0	4	2%	0	0	0	0%	1	0	1	0%	3	0	3	2%	2	0	2	1%
兵庫県	2	0	2	1%	2	1	3	1%	2	0	2	1%	2	0	2	1%	1	0	1	1%	2	0	2	1%
奈良県	0	0	0	0%	1	0	1	1%	0	0	0	0%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
和歌山県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
鳥取県	0	0	0	0%	1	0	1	1%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
島根県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
岡山県	0	1	1	1%	0	1	1	1%	0	0	0	0%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
広島県	1	0	1	1%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	1%	0	0	0	0%
山口県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	0%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	1	0	1	0%
徳島県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	1%	0	0	0	0%
香川県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
愛媛県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
高知県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	1%	0	0	0	0%
福岡県	0	0	0	0%	1	0	1	1%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	1	1	0%
佐賀県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
長崎県	0	0	0	0%	1	0	1	1%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
熊本県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
大分県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
宮崎県	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	0%
鹿児島県	0	0	0	0%	1	0	1	1%	1	0	1	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%
沖縄県	2	0	2	1%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	0	0	0	0%	1	0	1	0%
その他界外計	112	0	140	1% 64%	3	0	121	1% 62%	97	0	0 121	0% 58%	109	30	139	1% 68%	97	0	120	0% 60%	0	0	120	0% 58%
合 計	168	28 51	219	100%	99	32 51	131 211	100%	160	24 49	209	100%	166	39	205	100%	150	23 50	200	100%	98 155	53	208	100%
百 田	109	91	219	100%	100	51	211	100%	100	49	209	100%	100	39	205	100%	150	50	200	100%	199	ეა	208	100%

平成14年度卒業生の進路状況および平成15年度入学者数

		入 学 者 数							
学 科 等	進学教員		公務員	民間企業	その他	計	新入学	3年次編入学	
数 学 科	15	10	0	12	8	45	43	1	
物 理 学 科	26	0	0	9	7	42	53	1	
化 学 科	22	1	2	8	4	37	38	4	
生 物 学 科	14	0	0	4	6	24	24	3	
地質科学科	12	1	1	4	2	20	27	1	
自然環境科学科	23	1	0	5	6	35	34	5	
理 学 部	112	13	3	42	33	203	219	15	

大学院校舎新築工事·理学部校舎改修工事

理学部校舎の第1期改修工事の完了に引き続き、総合研究棟第3期(生命・環境棟)が新築されました。新築された生命・環境棟の中には、生物系の532㎡、地学系の458㎡の研究施設が整備され、11名の教員が移転します。建設中のベンチャービジネスラボラトリーの建物は、将来総合研究棟第4期および理学部C1棟と接続されることになっています。整備計画が順調に進められ、教育・研究のための施設が充実してきていることは喜ばしいことです。

しかし、1年延期されていた理学部校舎 C 棟の改修工事は、平成16年度の概算要求項目からも外れております。平成15年度の補正予算で整備が行われるかすかな望みは残ってはいますが、半年後に法人化をひかえ、新潟大学全体の整備計画が足踏みしていることは気掛かりなことです。「国立大学等施設緊急整備 5 か年計画」(平成13年度~平成17年度)の終了後も引き続いて施設整備は行われることになっていますが、法人化後は、大学に競争原理が持ち込まれることが予想され、これまで以上の努力が必要となってくるでしょう。施設整備を実現していくためには、自然系 4 部局で協力しながら、理学部施設の有効な利用を進めていくことが重要と考えられます。理学部校舎の改修工事は当初

の計画より遅れておりますが、いつ工事が開始されても良いよう、管理・共通棟と生命・環境棟の中に実験室、居室を借りることが認められております。決して後ろ向きになることなく進みましょう。一層のご協力をお願いいたします。

(理学部建物委員長 檀上篤徳)



建設中のベンチャービジネスラボラトリー



完成した生命環境棟



改修工事が完了した理学部 A 棟西側(手前建物の右半分)。 後方は左から物質生産棟、生命環境棟、情報理工棟。

これからの行事予定(平成15年度後半)

10月 2日 2 学期授業開始

11月22日~23日 推薦入試 12月25日~1月7日 冬期休業

1月17~18日 大学入試センター試験

2月25~26日 前期日程入学試験

3月11日 ~春季休業

3月16日 後期日程入学試験

3月23日 卒業式・卒業祝賀会

編集後記

南極観測船「しらせ」の後継船の予算の見通しがつかず、南極観測が中断の危機に立たされる等、日本の基礎科学をめぐる状況はいっそう厳しくなってきました。今号に載せた記事のように、新潟大学理学部も建物増改築や独法化など、大きな波にもまれています。このような中でも、理学に対する開拓者精神を忘れずに、教育研究に励みたいと思います。

広報委員:秋山茂樹(数)、大矢進(物)、岡村睦雄(化)、杉本健吉(生)、

志村俊昭(地)、卯田強(自)